



世帯数 6,106戸
人口 13,892人
(令和4.7.1現在)

優勝目指して

5月10日、グラウンドに、白球を追う選手の姿が戻ってきた。令和4年度のナイターソフトの開会式。2年間待たされた選手の笑顔であふれていた。

理事長の松澤さんは、開会式に先立って、「2年間でできなかったことで、4チームに減ってしまった。いよいよ再スタートがされることに感謝しながら、また7チーム目指して頑張りたい。」と抱負を語っていた。

開会式では百瀬町会の滝沢さんから、「ナイターソフトができることに感謝しながら、年齢に合わせてケガのないように楽しませよう。」と力強い選手宣誓が行われ、和気あいあいとした雰囲気の中、開幕した。

ナイターソフトボールは、昭和53年に開催されたやまびこ国体を記念して、第31回寿地区町内公民館対抗球技大会で40歳以上の「ソフトボール

競技」が加わったことから始まった。さらに有志により「夜間ソフトボール」が実施され、昭和57年に寿公民館の体育委員会が中心となり、赤木・小池・百瀬・白川・上瀬黒・竹

淵の6町会によるリーグ戦を実施。今日までその歴史を積み重ねてきた。

今年度は、百瀬・白川・竹淵・町会連合の4チームによるリーグ戦を1か月に3回のペースで9月まで、総当たり戦で実施予定。

記念すべき第1試合の結果は「白川1-23百瀬」「竹淵4-10連合」であった。これから、各チーム調子を上げて、熱戦が繰り広げられることを期待したい。



寿小学校5年生 田植えと代掻き

5月19日と23日に寿小学校5年生が田んぼの代掻きと田植えの体験学習をそれぞれ行いました。



代掻きとは、土を細かく砕き、かき混ぜて、土を柔らかくする作業です。子どもたちは、肥料をまき、田んぼの中を歩き回りました。

最初は土の感触から悲鳴を上げていましたが、慣れると地域講師の方や担任の先生に教わりながら一生懸命土を踏んでいました。終わってみれば、「深く歩きづらかったけど楽しかった」や「いろいろな生き物が見つかった楽しかった」など、楽しんだ様子でした。

田植えでは、苗の幅を均等に植えるため楽しみながらも慎重に丁寧に行っていました。「苗を分けるのが大変だったけど楽しかった」、「お米になるのが楽しみ」と言っていました。おいしいお米になるのが楽しみです。

【寿公民館】

新任の教頭先生に聞く

寿小学校 滝沢 聖二先生

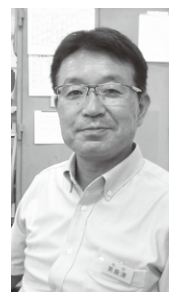


4月より寿小学校で教頭としてお世話になっております。滝沢聖二と申します。

これまで小規模校で担任や地域コーディネーターの立場で地域と学校がともに支え合うコミュニティスクールに携わってまいりました。

寿小学校は、地域の皆様に学校応援団として様々な面で子どもたちの学びの手助けをしていただき、年間では延べ150名を超える方々に関わっていただいているとのこと。本当にありがたいなあと、心や体の安全安心のために、子どもの居場所づくりとして「にこにこルーム」の活動、自発的な登下校の見守りの活動など感謝です。

筑摩野中学校 美齋津 昭博先生



筑摩野中学校への赴任を命じられた時には、とてもうれしく思いました。それは、私は数年前に筑摩野中学校へ勤務しており、保護者の皆様、地域の皆様、生徒のみんなや同僚たちに支えられ、とても楽しく充実していたからです。

4月、筑摩野中学校へ着任してすぐに、寿公民館の百瀬館長さんから「CSふたむら」についてご連絡をいただきました。また、夏休みには寿公民会主催の有償ボランティア事業（ことぶきサポート）をとおして、筑中生に活躍の場を与えてくださいました。地域の皆様から声をかけていただけることにたいへん感謝しております。

地域の皆様と共に活動し、地域から学び、地域に貢献できる生徒の育成を大事にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

わがまちオアシス

こちらのお宅に伺えばさうと素敵な時間を過ごすことができると！

寿田川町会で宮澤明美さんが経営されているキャンドルのワークショップ、RELAIR (リレア) の御紹介をさせていただきます。

RELAIRは昨年10月にオープンしました。それまで宮澤さんは看護師をしていましたが、もともと興味があったキャンドル作りを体験し、その楽しさや癒しを他の方にも体験してほしいという思いから始めたそうです。



宮澤 明美さん

え、次は違うイメージの物や、季節毎のイベントに合わせたまた作りしたいという

思いが湧いてきます。リピーターの方が多くのも納得できます。

また、キャンドル作りと一緒に低糖質スイーツプレートとフリードリンクがセットになっています。低糖質スイーツ講師でもある宮澤さんのスイーツは、見た目も美しく、コクのあるやさしい甘みで絶品です。

お部屋の一角に飾られたハンドメイド作家さんたちの素敵な作品も購入することが出来ます。ぜひ癒されに足を運んでみてはいかがでしょうか？



体験で作成したキャンドル

すか。御興味のある方は左記インスタグラムからお問い合わせください。

【館報編集委員 久保田 友之】



Instagram



低糖質スイーツプレート

エピソードで綴る寿の歴史① 木下尚江の外祖父が百瀬陣屋に勤めていた

島立の「歴史の里」の二画に

松本が生んだ社会運動家、木下尚江の生家が保存されている。木下尚江は明治2年生まれ、(昭和12年没)で、東京専門学校を卒業後、松本で新聞記者や弁護士として活躍し、中村太八郎らと普選運動を始め日露戦争に反対する小説を書き、非戦論と非暴力の思想を唱え民主主義の大切さを説いた思想家です。

木下家は松本藩戸田氏の足軽でした。この木下尚江は明治2年父木下秀勝の子として生まれます。彼に「尚江」と名付けたのが尚江の母の父である平岡脩蔵です。父秀勝は「尚江」が藩主の二女の名前と同じ名したといえます。母「くみ」の父が平岡徳左衛門(後に脩蔵)です。尚江の外祖父ということとなります。彼は百瀬陣屋の下役として安政4年から明治2年末まで勤めていました。平岡徳左衛門は嘉永3年(1850)11月26日「不調法の訳あり追放、御扶持給召し放ち」となり浪人となりました。安政3年(1856)に木下家は赦免され子息秀勝が

継いでいます。

浪人となった平岡徳左衛門はひよんな事から百瀬陣屋の下役に採用されます。安政4年5月20日、白川村の村役人啓兵衛が江戸屋敷出府の件で急便を出そうとして上諏訪へ出掛けますが大雨のため甲州街道は橋が落ち、水が溢れ不通で飛脚が止まらぬ。21日、彼は松本飛脚でなんとかならないか飛脚屋で交渉していたところ浪人平岡徳左衛門がそこに来て江戸への道順を飛脚に教えます。徳左衛門は松本発の飛脚へ頼んでくれ、彼の江戸の親類方に届け、そこからお屋敷へ届くように取りはからってくれました。この事がきっかけとなって平岡徳左衛門は陣屋に雇われることとなります。彼は平岡脩蔵と改名して身分は足軽として、10月8日下役代となります。当時下役は3人いましたので席順は「御徒士席」と告げられていました。浪人ですが元武士で、農民出身の下役より上に置かれたのだと思います。10月10日には廻文で平岡脩蔵が「御下役代」に雇われたことが村々に告げられました。10月11日の御用日記の下役席順は平岡脩蔵・

百瀬松右衛門・平林多郎となつています。はつきりと「下役平岡脩蔵」と書かれるのは安政5年7月6日です。

平岡脩蔵はどこに住んだのでしょうか。安政4年10月7日の記事は白川村名主「百瀬善兵衛の家人」と書かれています。すなわち、脩蔵は白川村名主善兵衛の家人という事になったのです。平岡脩蔵は明治14年に亡くなるのですが通夜の晩に秀勝の屋敷を白川村の教え子達が桃燈を持って何人も弔問に訪れたと木下尚江が書いています。名主百瀬善兵衛家は村役人の傍ら寺子屋をやつていました。家内人となった脩蔵は百瀬陣屋へ勤める傍ら寺子屋師匠もしていたと推定されます。また、平岡脩蔵は事務能力に優れた下役でした。

特に活躍したのは明治元年から明治2年です。尾州藩の使者から朝命を聞き対応したのは脩蔵でした。また百瀬知行所が伊那県に編入される引き渡しの事務の中心において実務を担当したのは彼でした。明治2年百瀬陣屋が終焉を迎えたとき、脩蔵は領主萬吉郎からその働きに対して袴を下賜され、賞詞を賜っています。

【寿史談会顧問 青木 教司】